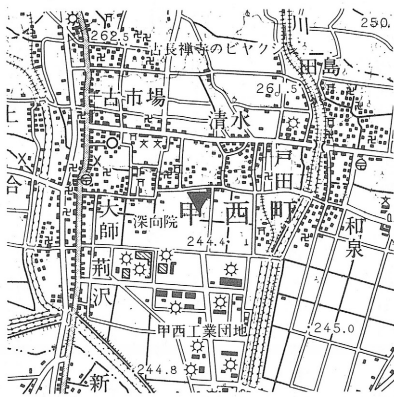


山梨・大師東丹保遺跡  
だいしひがしたんぼ

- 1 所在地 山梨県中巨摩郡甲西町大師・清水
- 2 調査期間 一九九三年(平5)四月～一九九四年二月
- 3 発掘機関 山梨県埋蔵文化財センター
- 4 調査担当者 新津 健・田口明子・小林健二・小泉 敬  
保坂和博・松土一志
- 5 遺跡の種類 建物跡・水田跡・祭祀跡・古墳・地震跡
- 6 遺跡の年代 一世紀～四世紀・一三世紀～一四世紀
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(新沢 鰻)

大師東丹保遺跡は、甲府盆地の中でも低位の地域に位置し、標高二五〇m前後を測る。この一帯は甲府盆地西縁にある楯形山から流れ出す幾筋もの小河川によって形成された扇状地の扇端部にあたり、豊富な湧水のもと、弥生時代以降の遺跡が多く、古代末から中世にかけては甲斐源氏の一統が居館を定めた

地域であり、古長禪寺のような戦国期大井氏に関わる寺院もある。

本遺跡の調査は、中部横断自動車道建設・国道五二号線（通称甲西バイパス）改築に伴い、山梨県埋蔵文化財センターが行なった。

調査区域が幅四〇m長さ四〇〇mと広いことから、既設の道路により概ね一〇〇mごとに南からⅠ区～Ⅳ区と区画し、Ⅰ区・Ⅱ区を一九九三年度に、Ⅲ区・Ⅳ区を一九九四年度に調査した。河川の氾濫により砂礫層・シルト層・粘土層が堆積しており、各調査区において二層から三層の文化層が確認されている。

調査の結果、鎌倉時代の建物・水田・祭祀跡・溝・杭列、古墳時代前期の円墳、弥生時代後期の水田・地震跡、弥生時代中期の溝など様々な時代の遺構が発見されている。遺物についても遺存状況がきわめて良好であり、多種多様なものが出土している。特に木簡が出土したⅡ区では、鎌倉時代中頃を中心とした多くの木製品をはじめ土器・陶磁器、石製品、金属製品、動・植物遺存体などがあり、本県における中世前半期の基礎的な資料となろう。木簡は包含層中より二つに折れて出土し、洪水で流された可能性もあり原位置を特定することはできない。

## 8 木簡の釈文・内容

### (1) 「山☆(符録)」

233×50×2 051

陰陽道の五芒星を記した呪符木簡である。符録以外の部分について

ては墨痕は不明瞭であり赤外線写真でも判然とせず、この木簡の性格を特定することは難しい。しかし遺跡一帯の地理的環境を考慮すれば、止雨を祈願した呪符とも考えられ、疫病除けの「蘇民将来札」ではないようである。他に人形・陽物形などの祭祀用具やウマの下顎骨なども出土しており、当時の生活に呪術習俗が深く関わっていたことが窺える。

釈読については、奈良大学の水野正好氏にご教示いただいた。

## 9 関係文献

山梨県教育委員会『大師東丹保遺跡』（山梨県埋蔵文化財センター調査報告八七 一九九四年）

山梨県教育委員会『大師東丹保遺跡2』（山梨県埋蔵文化財センター調査報告一〇二 一九九五年）

(小林健二)

